

事業報告書（令和3年度）

事業名 手軽に読める小冊子「SDGsを学び、できることを考えよう」の製作

団体名 特定非営利活動法人 AMDA 社会開発機構 担当者名 山上正道

※活動の様子がわかる写真（データもお願いします）と説明を必ず添付してください。

1. 活動内容（日時、場所、参加対象者、人数、内容等）
SDGs（持続可能な開発目標）をテーマにした小冊子を製作し、同データを当団体のホームページ上で公開することで、誰でも自由にダウンロードができるようにした。冊子の構成はA5サイズ8ページとし、当団体が活動している各国の現状や取り組み内容、いま岡山でできることなどを分かりやすくまとめた。SDGsの目標とその達成に向けた取り組みは多岐にわたるため、具体的な事例を紹介することで、身近なところからそれぞれが行動を起こすきっかけになることを企図した。
2. ESDの視点を取り入れたところ、ESDの視点で見直したところ
当団体が開発途上国で実施しているプロジェクトはSDGsの達成に寄与するものであるが、プロジェクトとSDGsが一对一で直接的に対応しているわけではないため、実際のプロジェクトがSDGsの達成とどのようなつながっているのかを伝えることに主眼をおいた。ESDの視点である「課題を自らの問題として捉え、一人ひとりが自分にできることを考え、実践していくこと」を踏まえ、開発途上国の現状と課題を理解し、身近なところからの取り組みができるきっかけとなるよう、小冊子では具体的な取り組み事例も紹介している。
3. 取組の成果（参加者にどのような意識や行動の教育上の成果があったか。感想など）
当団体が製作した動画コンテンツ「アニメで学ぶSDGs」や、令和2年度のESD活動支援助成金で製作した学校向けの「壁新聞」、各国の最新情報などに、本小冊子からアクセスしやすくなるよう、QRコードや検索方法などを記載した。 「それぞれの項目に対して具体的な活動例が記載されているので読んでいてわかりやすい」、「これから活動に取り組みたいと考えている人たちにとって良いヒントになる」、「冊子の縁取りの色を見るだけでSDGsに関係している内容であることがすぐ理解できる」など、教育関係者や生徒から高い評価を得ることができた。このほか、開発途上国の現状や取り組みについてはあまり知られていないので、いい学びの機会になったなどの感想が寄せられ、手に取った人に有益な情報を提供することができたと考える。
4. 今後の課題と展望
SDGsを切り口とした情報提供の新たな媒体ができたことで、SDGsを学ぼうと考える人々が、当団体の関連ホームページや、SNSなどにも容易にアクセスできるようになり、開発途上国の課題解決に向けた取り組みへの関心と理解のさらなる広がりが期待できる。新型コロナウイルス感染症の影響で対面での授業やイベントの実施が妨げられ、本冊子を直接配布する機会はまだ限られているが、データがダウンロードできることを積極的に広報し、SDGsを学べる1つの好材料として、多くの方の目に触れるよう努める。